



## ❖ トピックス

### ・第2回 超分子による革新的マテリアル開発の拠点形成国際シンポジウム 開催報告

金沢大学超然プロジェクト「超分子による革新的マテリアル開発の拠点形成」主催による第2回国際シンポジウムが、2016年10月26, 27日、金沢市の石川県文教会館にて開催された。金沢大学を含む国内15の大学、企業等から計334名の参加者が集い、会場は大盛況となった。基調講演を予定していたJ.-P. Sauvage先生(フランス・ストラスブール大学)の2016年ノーベル化学賞受賞が会期20日前(10月6日)に発表されたことを受け、当該講演を「ノーベル賞受賞特別セッション」として再編し、実施する運びとなった。

初日は、山崎光悦・金沢大学長による開会挨拶の後、M. J. MacLachlan先生(カナダ・ブリティッシュコロンビア大学)、石田康博先生(理研)、J. Bode先生(スイス、ETH)にご講演頂いた。その後、学生を主とした一般参加者によるショートプレゼンテーションおよびポスター発表(学内外から59件)を実施し、会場は熱気に包まれた。初日セッション終了後に同会場で開催された懇親会には、学生39名を含む79名が参加し、学生・教員の間で和気あいあいと交流する様子がみられた。

二日目は、基調講演として藤田誠先生(東京大学)、J. Sessler先生(米国・テキサス大学オースチン校)にご講演頂き、また招待講演としてG. Clever先生(ドイツ・ドルトムント工科大学)、前田大光先生(立命館大学)、矢貝史樹先生(千葉大学)、A. M. Brouwer先生(オランダ・アムステルダム大学)、生越友樹先生(金沢大学)にご講演頂いた。その後、ポスター賞表彰式が行われ、初日のポスター発表において評価の高かった学生の発表計8件にベストポスター賞およびポスター賞が授与された。

二日目最後に実施されたJ.-P. Sauvage先生のノーベル賞受賞特別セッションには、本シンポジウム参加者に加えて、近隣の高校生等一般からの参加もあった。冒頭に「ノーベル賞受賞決定に寄せて」と題して、塩谷光彦先生(東京大学)から祝福のコメントをお寄せ頂いた後、本年度のノーベル化学賞のトピックである「分子機械」の意義やエピソードについてご紹介頂いた。その後、J.-P. Sauvage先生より、カテナンの研究を始めたきっかけや、その後の分子ノット・人工筋肉等さまざまなインターロック分子へと展開した研究内容についてわかりやすくご講演いただいた。講演後には花束贈呈もあり、会場は、ノーベル賞受賞決定を祝福する盛大な拍手に包まれた。その後、水野元博教授(金沢大学・超然プロジェクト代表)による閉会挨拶があり、会場が熱気に包まれたままシンポジウムは閉会となった。



J.-P. Sauvage 先生 (ノーベル賞受賞特別セッションにて)



招待講演者と金沢大学「超然プロジェクト」メンバー